

# 全国一般神奈川

発行者

全国一般労働組合全国協議会神奈川

横浜市中区翁町 1-5-14

新見翁ビル4F

TEL. FAX.

045-319-4391

## なぜ私たち労働組合が 反戦平和運動に取り組むのか あらためて平和について考えよう！

ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルによるガザ市民への弾圧、イランとイスラエルの戦闘、アメリカによるイランへの攻撃など、国際情勢は対話・外交による紛争解決とは正反対の力づくによる支配がまかり通る状況になっている。国内に目を向ければ、今年は沖縄戦後80年の節目の年となるなか、自民党国会議員によるひめゆりの塔をめぐる歴史を歪曲した主張は、成人男子の4人に1人が亡くなった沖縄の悲劇を冒瀆し、太平洋戦争を招いた当時の日本の美化に他ならない。また20日投票の参議院選ではトランプ政権の「アメリカファースト」ならぬ「日本人ファースト」という、日本で働き、生活営む外国人の人権を軽視、敵視するような排他



的言動さえ出てきている。

また、日本の在日米軍基地の70%が集中している沖縄を、まるで他人事としてとらえ、他国間の紛争を対岸の火事としか考えずに、核の抑止力や軍事力の増強で国を守る事ができるという妄想に疑問を持たなくなっている風潮がある。その先にあるのは際限のない軍拡競争と疲弊する国民生活に他ならない。

当たり前のことだが、私たち労働組合の権利と生活を守るための闘いは戦争のない社会、命が簡単に奪われることのない社会であることが前提となる。そのような社会は個別の労使交渉によって実現できる次元ではない。だからこそ核廃絶を求め続け、辺野古基地建設や防衛費増額NO!の姿勢で政治へ

の取り組みを継続していかなければならない。いったん戦火となれば真つ先に犠牲になるのが子供や女性、一般市民であることは歴史が証明している。

労働組合の組織率の低下に歯止めがかけられない背景の一つとして、個々の労働者の孤立化、分断化が指摘されているが、このことと安倍政権以降顕著になっている、戦争ができる国づくり、台湾有事などを口実にした軍事大国化の進行は無関係ではないだろう。労働者間の分断は世代間の分断や地域社会での協同意識の希薄化を生み出し、そのはけ口として閉鎖的な自国優先政策が蔓延していく。

一方で平和を守る運動は単純な護憲、軍事増強反対だけに収束するものではないことも忘れてはならない。大都市の電力需要集中とそれを維持するための地方への原発の押し付け、介護や福祉の現場で働く人の労働条件改善への無関心等、まずは足元の日々の地域生活に目を向けて、労働者が連帯して社会的発言力を高めることの価値を信じて前進していく。

全国一般神奈川執行委員会

### スケジュール

- 7月9日 10時 穂積法律事務所  
ビステオン法対
- 7月9日 17時30分 新杉田駅  
最賃情宣行動
- 7月9日 20時 事務所・LINE  
神奈川合同支部会議
- 7月10日 19時 事務所  
県共闘幹事会
- 7月11日 8時30分 桜木町  
FF1500行動
- 7月11日 11時 合同庁舎  
最賃意見書提出
- 7月11日 16時 県民センター604  
がくろう神奈川定期大会
- 7月13日 10時 事務所  
機関紙発送作業
- 7月16日 18時30分 砂子局  
郵便京町郵便局団体交渉
- 7月17日 10時 横浜地裁  
JIRITAMA解雇撤回裁判証人尋問
- 7月19日 13時 百合丘  
らぼおるの樹会議
- 7月20日 14時 寿公園  
寿労働相談
- 7月21日 19時 事務所  
第10回担当者会議
- 7月23日 17時30分 横浜西口  
JAL横浜西口情宣行動
- 7月24日 19時 事務所  
県共闘事務局会議
- 7月26日 15時 事務所  
郵便サポート会議
- 7月27日 14時 事務所  
第10回支部代表者会議



# 平和の声を絶やさない！ 身近な活動から始めよう

梅雨が明けた6月23日から26日までの4日間、自転車で反戦平和脱原発、環境問題を訴える活動をしている沖縄ピースサイクルに参加した。

沖縄は、6月23日、第二次世界大戦末期の沖縄戦の犠牲者らを悼む「慰霊の日」を迎え、沖縄戦最後の激戦地のひとつ、糸満市米須（こめす）に立つ「魂魄（こんぱく）の塔」で開催された、国際反戦沖縄集會に参加した。42回を迎えるこの集會では、（1）新基地建設に反対する辺野古、グレート・海の闘いの報告（2）大浦湾埋め立て土砂搬出港での牛歩の闘い報告（3）韓国戒厳令下の韓国市民の闘いの報告（4）ミニコンサートなどの報告と演奏があり、最後に参加者全員で、作詞作曲海勢頭豊「月桃」を合唱し、炎天下での約2時間の集會は終えた。

戦に約1時間参加する葉や集會での壇上からの発言を振り返り、黙っているのは平和な世界は遠ざかってしまう。平和は多くの人の行動の中から作り出されているという思いを強くした。

今ピースでは、5か所の遺跡と嘉手納基地を自転車で巡り、辺野古グレートでの座り込み、安和・塩川港での土砂搬出ストツブ牛歩活動と共に始めよう。

（佐藤）



国際反戦沖縄集會の様子「月桃」を合唱する

## 最賃アップに向けた闘いを共に進めよう！

2024年地域別最低賃金改定では全国加重平均1055円（前年比51円・5.1%増）、神奈川県では1162円（前年比50円・4.4%増）といずれも過去最大となりました。しかし、この程度の時給引上げでは米をはじめとした物価高騰に全く追いついておらず、人間らしい生活は更に遠ざかる状況が続いています。

派遣・有期雇用労働者にとりまく状況は益々厳しくなり、最低賃金で働く労働者は、かつてのように家計補助の主婦パートや学生アルバイトだけではなく、最賃で働く労働者が家族の生活・家計を担う主体となっています。また、そうした家庭で育つ子供たちは家事労働に忙殺され、やっと進学出来ても、その先には奨学金返済のローン地獄が待っています。そのため、将来の結婚や出産もおのずと敬遠されがちになっており、「少子高齢化の問題」は最低賃金と決して無縁ではありません。

最低賃金近傍で働く労働者が急増するなかで、最賃問題は、高齢者、女性労働者、外国人労働者等を含む全労働者の4割を超える労働者の賃金に直結する問題になっています。静岡大学の中澤隼教授のマーケットバスケット方式による調査によれば、健康で文化的な最低限度の生活水準として想定した生活を送るには、時給にして1500円以上が必要だとされています。改めて、「労働者の生活の安定、労働力の質的向上」

を保障する生計費としての最低賃金アップを求め、闘いを共に進めていきましょう！（書記局）

【今後の最賃取り組み】  
■新杉田駅賃上げ行動  
7月9日 17時30分  
■FF1500行動  
7月11日 8時30分  
桜木町駅前賃上げ行動  
合同庁舎 11時  
意見書ならびに署名提出



## 平賀前全国一般全国協中央執行 委員長を偲ぶ会開かれる！

6月7日、平賀前全国一般全国協中央執行委員長を偲ぶ会が開かれました。昨年7月11日に急逝された本当に残念でなりません。平賀前委員長は全国一般神奈川の闘いや大会等お忙しい中必ず駆けつけて下さいました。偲ぶ会

は全国一般・全国協はじめ全国から参加した多くの方々から、いつも運動の先頭で闘う平賀前全国協委員長の人となり語られました。平賀前全国協委員長の思いを引き継ぎ中小労働運動の前進へ共に取り組みましょう。（河野）



2023年9月 全国一般神奈川定期大会